

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270400759		
法人名	社会福祉法人 祥仁会		
事業所名	グループホーム 貝津		
所在地	〒854-0063 長崎県諫早市貝津町2239-2 (電話) 0957-25-4100		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年11月12日	評価確定日	平成20年12月11日

## 【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	8.75人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り 平屋建て		
	1階建ての 階 ~ 1階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費300円/日・その他実費	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無		有の場合 償却の有無 有(無)	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90.1 歳	最低	80 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 祥仁会 西諫早病院・医療法人社団トキワ会みぞこし歯科医院
---------	-----------------------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

諫早市内中心部で国道が近くに通っているが、静かな住宅街の中に溶け込むように存在しているホームである。法人に組み込まれているホームで、理念を【家庭的雰囲気の中で共に毎日を楽しみ安心してその人らしい暮らしができるように援助する】を掲げられている。ホーム独自に【一人ひとりの個性を尊重し毎日が充実した生活を送れるよう、気持ちを込めた介護を】を合言葉にされて、入居者に寄り添った介護の実践がなされている。平成19年2月に法人内で管理者の交代があり今後更なる向上が期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での主な改善課題は14項目に分けて取り組まれており、介護の実践に役立てられている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価と外部評価の意義は職員全体が周知されている。管理者と副主任を含め職員全体で意見交換して作成されている。自己評価と外部評価の結果は法人事務長や運営推進会議で報告されサービス実践に活かされている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回運営推進会議を開催されている。民生委員が4名、入居者と家族代表・地域包括支援センター職員、市担当職員などの参加があり、内部・外部評価結果の公表や、参加者からの活発な意見交換をサービス向上に取り入れられている。例えば市担当職員から「権利擁護」について講義があり、民生委員から活発な質問や意見交換などで、地域に反映された取り組みが行われている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>意見箱の設置や面会時にご家族の意見を聴取するなど、家族が意見を述べやすい方法を検討し実行されているが、家族の意見や相談、運営に反映されるような話しを見出すには至っていない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の自治会に加入されている。回覧板を回すなどされている。小学生の社会科見学の受け入れや、地区行事によっては可能な限り入居者を含めて参加されている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念	母体法人の理事長が設立当初から「地域への貢献」を念頭に置かれて当ホームは開設されている。「地域密着」は当然のごとく意識されており、あえて設立当初の理念の変更はされていない。		
		理念の共有と日々の取り組み	ホーム理念と職員の目標を掲げられており、全職員が介護に向き合う姿勢を日々意識して介護の実践に活かしておられる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい	近隣の自治会に加入され、回覧板なども回されている。小学生の社会科見学の受け入れや、地区行事によって可能な限り入居者を含めて参加されている。	○	ホームの入居者の生活の延長線として、居室を自宅とみなして各部屋に回覧板を回すなど検討されることが期待される。又、婦人会の活動の中にボランティア活動を模索されている地域もあるので、「話し相手ボランティア」の受け入れなども視野に入れ、取り組まれていくことが期待される。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用	自己評価と外部評価の意義は職員全体が周知されている。管理者と副主任を含め職員全体で意見交換して作成されている。自己評価と外部評価の結果は法人理事長や運営推進会議で報告され、サービスの実践に活かされている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
		運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月1回運営推進会議を開催されている。民生委員が4名、入居者と家族代表・地域包括支援センター職員、市担当職員などの参加があり、内部・外部評価結果の公表や活発な意見交換をサービス向上に活かされている。例えば市担当職員から「権利擁護」についての講義があり、民生委員から活発な質問などあり、地域に反映されている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 貝津

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員には運営推進会議に参加してもらっている。主に地域包括支援センターと連携をとり、報告・連絡・相談のつながりをサービス向上に役立てられている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時個人記録を見てもらい、生活や健康状態など報告されている。遠方のご家族には毎月「しあわせ新聞」便りを請求書と共に送付され、家族からの電話が月2～3回あり、直接話す事が安心につながっている。入居者の変化時は随時電話連絡されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時にご家族の意見を聴取するなど家族の意見を述べやすい方法を検討し実行されているが、運営に関する意見はなく、反映されていない。また、1年に1回家族会を開催されているが、その時にも運営に対する意見は出てこない状況である。	○	家族会時など、職員が席を外した状態で家族が構えない環境を作り、家族代表が意見をまとめるなど検討されることが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	設立当初から働かれている職員が多い。退職、離職は殆どなく、法人内異動が時々ある。今年2月に法人内異動で管理者の交代があったが、入居者や家族との面識も多くスムーズに受け入れられ、入居者へのダメージは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や勉強会は月1回以上あり、なるべく参加を促されている。外部研修に行った職員から他の職員へ伝達講習が行われている。グループホーム内での勉強会で外部研修の報告を兼ねて、近隣住民に向けて「介護教室」を開催するなどの試みを視野に入れて職員の育成を検討されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に月1回、管理者と職員が参加し、他のグループホーム職員との交流が行われ、グループホーム間の相互見学については今後取り組みたいと前向きな姿勢が窺われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>法人内の病院や介護施設から入居される方が多く、入居が決まると家族や本人が見学に来られ、家族や病院スタッフからも情報収集をされている。本人が納得された状態で入居されており、入居当初は家族訪問などで安心できる環境に配慮されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は家族の一員として入居者と関わりを持たれており、入居者一人ひとりの思いを汲み取りながら日々を過ごされている。料理の作り方を教えてもらったり、「ぐべと あけびの見分け方」など訪問当日の食後の話題に花を咲かせる光景に入居者が日々を穏やかに過ごされている様子が窺えた。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の生活歴を知っていないと分からない感情の変化や行動から本人の意向を汲み取り、関わり方の工夫をされている。申し送りノートにも記載し途切れない介護支援をされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回担当職員を中心として計画作成担当者、職員全体でカンファレンスを持たれている。職員の気付きや意見交換、アセスメント、家族と本人、事業所以外の関係者の意見を取り入れて介護計画を作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>健康状態の変化や本人・家族の要望や、身近な職員しか知りえない気付きを取り入れ現状に合った介護計画となるように見直しをされている。</p>		

グループホーム 貝津

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 <sup>の</sup> 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的な病院受診時の送迎サービスは当然のごとく行われている。特別な外出(墓参り、美容院への同行、地区敬老会への送迎など)も本人の意向に沿った柔軟な支援が行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の病院受診になることを、入居申し込み時点で家族や本人の了解を得られている。希望があれば法人外病院への受診支援もされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療法人が母体となっており緊急時は迅速な対応ができる事が、入居者や家族に安心感をもたらされている。重度化や終末期の対応はされておらず、健康状態に問題が生じた場合は、家族と本人、主治医と話し合わせ職員にも情報の共有をされている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報やプライバシーの保護は全職員に周知され、「権利擁護」についての勉強会など行われている。日々の介護日誌や個人情報は保管場所を決められており、日々の記録は個人を特定できない工夫をされている。入居者への言葉使いやプライバシーに配慮したトイレ誘導など行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを尊重し、一日を本人が好きなように過ごされている。病院受診など最低限度必要な理由以外では、本人の意向に沿う支援がされている。例えば「美容院」に行きたいと希望されたり、敷地内の菜園で季節の野菜作りや畑の手入れなど習慣とされている事への支援をされている。		

グループホーム 貝津

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に応じた食事の下ごしらえや後片付けなど職員と共にされている。食事は入居者と職員が同じテーブルで食べながら会話を楽しむ光景が自然であった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、入居者の希望に沿う支援がされている。入居者の体調や外出などで入浴日や時間の変更は柔軟に対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴などを念頭に置き、「美容院に行きたい」とかホーム内にある畑で、「季節の野菜を作りたい」など入居者の楽しみ事を引き出す支援をされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に入居者が外気に触れる機会を積極的に作られている。短時間のドライブや買い物・日常的な散歩など取り入れられている。玄関横のベンチで近所の方との談笑が日常的に見受けられ、入居者が一人で出掛けようとされるとさりげなく職員が寄り添い本人が納得されてホームに戻る支援をされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは国道近くにあるが昼間の施錠はされておらず、職員のさりげない見守りが常にあり、玄関横の鏡を置く位置を工夫しドアベルが玄関の出入りを知らせるようにしてある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練や避難・誘導訓練など消防署指導の下で行われ、自主訓練は定期的に入居者と共に設定を変えながら実施されている。近隣住民へ訓練の通知や参加など呼びかけて行われている。		

グループホーム 貝津

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分チェックなどされており、法人内の管理栄養士が献立表のチェックや栄養バランスを評価されており、最近では改善の指摘も少なくなっている。入居者の希望する献立も取り入れられている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは広く、採光はカーテンで調整されている。壁には入居者手作りのカレンダーや季節感が分かる貼り絵などで飾られている。テーブルには季節の花を置いてあり、食後もソファで寛がれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は本人の好みを取り入れ個性があり、使い慣れた家具や写真が飾られ、居心地良く過ごせる工夫がなされている。		